

## 旧第 11 通学区高等学校教育懇話会 第 4 回会議録

旧第 11 通学区高等学校教育懇話会 第 4 回会議が、令和 3 年 5 月 24 日、午前 10 時 00 分、塩尻市保健福祉センター 3 階市民交流室に招集された。

### 会 議 日 程

#### 1 開 会

#### 2 挨 拶

#### 3 新構成員紹介

#### 4 会議事項

##### (1) 報告

- ・ 安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会報告
- ・ 意見聴取の結果について
  - (量的調査) 中高生の Web アンケート  
小中高 P T A 役員、高校同窓会役員
  - (質的調査) 高校生による高校のあり方フォーラム  
中学生の対面ヒアリング

##### (2) 中学生の期待に応える学びの場について

##### (3) 意見要望の項目について

##### (4) その他

#### 5 閉 会

#### ○ 構成員

松本市長	臥	雲	義	尚
塩尻市長	小	口	利	幸
安曇野市長	宮	澤	宗	弘
松本市教育長	伊	佐	治	裕
塩尻市教育長	赤	羽	高	志
安曇野市教育長	橋	渡	勝	也
山形村教育長	根	橋	範	男
麻績村教育長	飯	森		力
筑北村教育長	滝	澤	昭	文
生坂村教育長	樋	口	雄	一
朝日村教育長	百	瀬	司	郎
JA あづみ 組合長	千	國		茂

松本機械金属工業会 会長	平 林 正 吉
松本商工会議所 会頭	井 上 保
塩尻商工会議所 会頭	中 島 芳 郎
安曇野市商工会 会長	高 橋 秀 生
国立大学法人信州大学教職支援センター 准教授	荒 井 英 治 郎
長野県地域振興局長	草 間 康 晴
松本市PTA 連合会 会長	山 本 美 帆
安曇野市PTA 連合会 会長	向 山 啓 二 郎
松本市中学校長会長（松本市立山辺中学校長）	横 田 則 雄
安曇野市中学校長会長（安曇野市立豊科南中学校長）	早 川 正 美
松本県ヶ丘高等学校長	杉 村 修 一
田川高等学校長	清 水 寛
豊科高等学校長	保 坂 美 代 子

## ○ 説明のため出席した者

長野県教育委員会事務局高校教育課 高校再編推進室 室長	駒 瀬 隆
長野県教育委員会事務局高校教育課 高校再編推進室 主任指導主事	山 岸 明

## 1 開会

**青木こども教育部長** それでは、皆様こんにちは。本日は大変お忙しいところ、お集まりをいただきまして大変ありがとうございます。定刻になりましたので、ただいまから旧第11通学区高等学校教育懇話会の第4回会議を開会いたします。私は本日の進行を務めます、共同事務局塩尻市教育委員会の青木と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

まず初めに皆様にお断り申し上げますが、新型コロナウイルス感染症対策のため、本日は窓とドアを開扉したまま会議を進行いたします。また、ソーシャルディスタンスを確保するために座席数を最小限にとどめ、座席の配置も通常とは異なっております。御不便をおかけしますが、何とぞ御理解の上、御了承いただきますようお願い申し上げます。

それでは、まず初めに、お手元の資料の確認をお願いいたします。資料は全部で4種類ございます。まず、式次第を表紙にとじたもの、そして右上に「資料1」から「資料3」と記載され、それぞれとじたもの、以上4種類ございます。不足している資料はございませんでしょうか。

よろしければ、次第を表紙にとじた資料を御覧ください。本日の会議事項であります、事務局から資料説明の後、「中学生の期待に応える学びの場」について御議論をいただきます。その後、意見要望項目について御審議をいただきます。次第をおめぐりいただきますと、開催要綱、構成員名簿、本懇話会のこれまでの開催経緯をまとめてございますので御確認ください。構成員名簿は網掛けをされている方が今回新たにお迎えをした構成員でございます。最後のページに、これまで実施しました「住民説明会」「研究部会・合同部会」「質的・量的

調査」それぞれの概要についてまとめてございますので、よろしくお願いいたします。

## 2 挨拶

**青木こども教育部長** それでは会を進めてまいりたいと思います。2の挨拶でございます。まず初めに、事務局を代表して、県教育委員会事務局高校教育課参事兼高校再編推進室長、駒瀬隆より御挨拶がございます。

**駒瀬県教育委員会事務局高校教育課参事兼高校再編推進室長** 皆様方、こんにちは。ただいま御紹介いただきました県教育委員会高校教育課高校再編推進室長の駒瀬隆でございます。松本市、塩尻市、安曇野市の3市町村を初めとする構成委員の皆様方におかれましては、公務御多忙中、御参集いただきましたこと、県教育委員会を代表して厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の第4波の拡大が心配されておりますが、県の方針に基づき感染対策を万全にとって開催していただいております。開催に当たっては関係各位の御尽力に深く感謝申し上げます。

さて、前回、3月16日の第3回懇話会でお決めいただいたとおり、4月から5月にかけて本懇話会による中学2年生、3年生と高校生、合わせて1万400人を対象としたアンケート調査、小中高のPTA役員、高校同窓会の皆様方への様々な手法による調査、さらには中高生への対面ヒアリングなど質的、量的調査に精力的に取り組んでいただきました。これらの実施については、荒井座長様を初め、市町村の教育委員会事務局の皆様、各校の校長先生を初めとする先生方の御理解、御協力があったことと承知しております。中には、GIGAスクール構想による端末が配備されてすぐの調査のため、大変苦勞された学校があったと聞いています。本当にありがとうございました。

これらの調査は、懇話会のできるだけ丁寧な聞き取りをとという御意見に真摯に応えたものだと思っております。また、これほど大規模な調査、意見聴取はこれまで例がないと思われるし、貴重な資料、データであると感じております。ぜひ、調査結果を懇話会の議論や意見交換に効果的に活用していただきながら、少子化と共に予測困難な時代を迎える中での高校の在り方、中学生の期待に答える学びについて、構成員の皆様方の奇譚のない前向きな御意見を頂戴したいと思っております。本日はよろしくお願いいたします。

## 3 新構成員紹介

**青木こども教育部長** それでは、続きまして、3、新構成員紹介に移ります。新しい構成員の方に名簿順で御挨拶をいただきたいと思っております。名簿は次第をとじた資料の3枚目でございますので御覧ください。

(新構成員紹介)

**青木こども教育部長** なお、本日の御欠席につきましては、滝澤様、伊藤様、千國様、坂下様、小林様より御連絡をいただいておりますので、よろしくお願いいたします。

## 4 会議事項

**青木こども教育部長** それでは、4の会議事項に移ります。ここからは開催要綱2の(3)により、座長に進行、副座長に補佐をお願いしております。赤羽郁夫前松本市教育長をお願いをしておりました副座長でございますが、先ほど御挨拶の中にもございましたが、引き続き、

松本市教育長の伊佐治様をお願いしたいと存じます。よろしく願いいたします。それでは、座長様、副座長様、よろしく願いいたします。

**荒井座長** 皆さん、おはようございます。信州大学の荒井でございます。座長を仰せつかっております。本日も時間が限られておりますけれども、会のスムーズな進行に御協力いただけたらと思っております。

まず初めに、今回が第4回会議という形になりますけれども、第3回の議事録に関してあらかじめ事務局から送付をさせていただいております。御意見等、特段、こちらにはありませんでしたので、御了承いただいたということで議事録の確定とさせていただきたいと思っております。

#### 4 会議事項

**荒井座長** それでは、次第の4、会議事項（1）を御覧いただけたらと思っております。（1）報告です。今回、この報告の内容としましては、1つ目としまして安曇野等の合同部会を設置させていただきました。こちらの報告をさせていただきます。その後、委員の皆様方から様々な御意見をいただいたものの中に、当事者、関係者に対する意見聴取の必要性というようなことを御指摘いただきましたので、先ほど事務局からも御説明がありましたが、質的な、そして量的な調査ということで、定量的、形成的な調査を実施いたしました。恐らく、全県においても、過去、これまでにはない最大規模の調査になったのではないかと思います。本日のメインは、こちらの結果に関しまして、皆様方の受け止め、御意見等を頂戴できればというものをメインのテーマにさせていただけたらと思っておりますので、御了解いただけたらと思っております。

それでは、まず、資料1を。ホチキス留めでとじてあるものですが、御覧いただけますでしょうか。こちらは合同部会の報告となります。合同部会の座長を私、拝命いたしましたので、その立場として御報告をさせていただけたらと思っております。

資料の1、よろしいでしょうか。こちらは合同部会の報告とありますけれども、全11ページにわたるものになります。目次を踏まえて少し構成を説明をさせていただきますけれども、まず1枚めくっていただきまして、開催要綱になります。その後、構成員、開催概要、報告というような形での4本の柱になっております。

それでは、2ページ目の開催要綱を御覧いただけたらと思っております。こちらの合同部会の設置におきましては、いわゆる安曇野地区と旧第12通学区の在り方の検討と、現在、隣接する地域にある3校の専門高校の在り方、そういった部分についての検討をするという命題を頂いておりました。

構成委員におきましては3ページを御覧いただけたらと思っておりますが、市町村の教育長、産業界の皆様、各中学校及び高等学校の校長会の代表者、そして地域の実情に応じた者という形で、3ページになりますけれども、様々なお立場の方々に御多忙の中お越しいただきまして、3回ほどの議論をさせていただいたという形になります。

続いて4ページ目をお開きください。それぞれの開催概要、第1回から第3回に関するの概括をさせていただいた内容を報告させていただきます。

第1回会議、3月11日、安曇野市で開催されました。こちらの主な内容は、自己紹介を含め、資料の5ページにあります資料の説明です。こちらは県の教育委員会から、県の教育

委員会として方針を提案していただいております総合技術高校とはどのようなものなのかという仕組みの概要の説明をいただきました。また、2011年度における募集の状況等、県の教育委員会からの説明を踏まえまして、皆様方から御意見を頂戴した次第であります。

4 ページ目の中段に論点整理等というところがありましたけれども、こちらにおきましては、会議マネジメントの改善というのは、県の説明と共に具体的な踏み込んだディスカッションをとということで、その辺りの御指摘をいただきました。また、旧来からの論点ではあります、公立と私立との関係の在り方について問うべきではないかという御意見もいただきました。さらに、この第1回目の会議では、県の教育委員会から総合技術高校というものの仕組みの概要を説明いただきましたけれども、既に長野県内においては総合技術高校というものが設置され、走っているということもありますので、具体的な資料提供等が必要ではないかという御意見を頂戴しました。

5 ページ目を御覧いただけたらと思っておりますが、意見の概要ということで、(A) から (E) までそれぞれのお名前は消させていただきますけれども、御意見を頂戴した内容を概括しております。

続いて6 ページ目に移らせていただきます。第2回会議は4月26日、大町市にて開催されました。第1回の内容としまして、具体的な県で提案していただいている総合技術高校の具体例をというお話を御意見としていただきました。こちらにありますとおり、長野県内の3校の総合技術高校の資料提供及び具体的に校長先生にお越しいただきまして、その学校の現状、そして成果、課題についての情報共有をさせていただいた次第であります。

6 ページ目の下段を見ていただけたらと思っておりますが、論点整理というところになります。こちらは先ほどの説明どおりですけれども、総合技術高校3校の現状と課題を委員の皆様と共有させていただきました。それぞれの多様性に満ちた形ではありますけれども、総合技術高校の特徴としまして、カリキュラムの専門性だけでなく、教科及び学科の横断的な学びを実現できる、さらに様々な学能知及び実践知を融合した学びが実践できる点があるという報告を受けました。

また、地域コンソーシアムといったような形で、教育関係者のみならず地域産業関係者の方々等も含めたコンソーシアムを設置することにより、地域、そして地元、地域産業との協働的な学びということ、協働的な関係ということで、産業界と教育業界との連携の在り方を具体的に御提案いただいた次第であります。このことにより、中学生そして高校生へと上がっていく段階ではありますけれども、まだまだ進路において多様な選択肢がある年齢だと思っております。かつ、その模索に教育関係者がどの程度寄り添うのかということが決定的に重要かと思っておりますけれども、様々な選択肢を用意することによって、フレキシブル、そして多様な進路選択というものができるといけないかという御意見をいただきました。

他方で、様々な危惧というものもそれぞれの委員の皆様からいただきました。6 ページ目の末尾になりますが、総合技術高校の設置に対して当該検討地区ではまだ機が熟していないという御懸念、さらには、既に存在している専門学科等において、今回紹介された総合技術高校における学びは既に行われているのではないかと。したがって、現状を維持すべきという御意見をいただきました。

他方で、総論としましては、この総合技術高校というような仕組みに関しましては魅力的である、また魅力的な学び場であるということ、委員の皆様の間で共有されたということは

御確認いただけたかと思えます。

また、現在、既に存在している高校におきまして、これは普通科も含めてですけれども、定員を現実として満たすことができない、こういった状況に対してどのような対応をしていくべきなのか考えなければいけないという御意見も頂戴しました。また、新たに、この総合技術高校を設置する場合は、様々な条件整備が必要になるということで、一例ですけれども、例えば通学の問題が必然的に生じますので、そこへの具体的な対応。中学校やさらには他部署の皆様に対する情報提供の在り方、また、地域や県民の皆様への理解の促進等が必要であるということも御要望をいただきました。最後の丸でありますけれども、いずれにしても、これから未来を担う子どもたちの当事者の気持ちにきちんと寄り添う必要があるのではないか。その10年後、20年後のために我々、いわゆる大人が責任のある意思決定をしていく必要があるのではないかという御意見を頂戴しました。

8ページ、9ページを御覧いただけたらと思えます。今、御説明させていただいた内容を、概要ではありますが、それぞれの委員の皆様方から様々な意見を頂戴いたしました。時間の関係で1つずつ触れることはできませんけれども、重要な指摘等をいただいておりますので、こちら(A)から10ページの(P)までございますけれども、御覧いただけたらと思っております。

最後に11ページ目を御覧ください。第3回の会議におきましては、こちらの報告の案ということで、私、座長と事務局で案を提案させていただき、それに対する御意見等を頂戴いたしました。様々な議論をさせていただいた結果、合同部会として決定をされ、今回の懇話会に、そして、もう1つの12通学区の協議会に報告をする内容が11ページからの内容になります。とても重要な内容も入っておりますので、逐次説明をさせていただくことを御了解いただけたらと思えます。

11ページ目を御覧ください。合同部会においては、一定の結論を出すものではないという前提で開催されたことが、まずございます。他方で、少子化の加速や定員割れの状況という現実から目をそらしてはならず、合同部会の場でも次世代に対して責任ある議論を積極的に行うべきであるという意見もあったとまとめさせていただきました。一步踏み込む必要があるのではないかという御意見です。

そのような中で、合同部会では、3回にわたるものが行われましたけれども、第1回の合同部会では、先ほどの説明のとおり少子化の状況、そして産業教育における今後の在り方、総合技術高校の概要説明が行われました。

続いて第2回目の合同部会では、県の教育委員会の事務局から、先日、令和3年3月に公表された「第1期長野県高等学校再編計画まとめと課題の整理」において、総合技術高校というものが1つの選択肢である、有効な選択肢であるということを考えていると、県の見解が説明されました。また、県内の既に先行事例であります総合技術高校3校から、成果と課題が示されました。先ほどの繰り返しになりますが、これからの時代の産業教育における総合技術高校の優位性、高い専門性を担保しつつ、地域に根差した、そして地域と連携した探求学習等の実践が行われているということ、さらには、こちらの総合技術高校から高等教育機関への進学者が近年増加傾向にあるということ、また、地域の評価、そして期待というものが高いという御報告がされました。

こちらを踏まえまして、第2回会議、そして第3回の会議では、各参加者の委員の皆様方

から個人個人、お一方ずつ御意見を頂戴しました。その結果ですけれども、下線になります。本地区における今後の少子化の状況や社会の変化に対応した専門教育の維持・充実を図るためには、総合技術高校の設置に向けた具体的な条件整備の在り方を議論していくべきであるという趣旨の意見が大勢を占めたとまとめさせていただきました。

他方で、これはあくまで大勢を占めたということで、その後続きますとおり、様々な御意見を頂戴しております。

一べついただけたらと思いますが、なお以下になります。少子化の状況を鑑みてスピード感を持って一刻も早く進めていくべきであるという御意見。本地区の専門高校3校は、既に地域連携や高い専門性を追求する学びが展開できているため、総合技術高校を新たに設置する必要はないという御意見。機が熟していないという御意見。地域の枠を越えて、安曇野エリアを一体として捉えるべきであるという御意見。先行事例が抱える課題を踏まえて、2キャンパス化にしてはならないという御意見。私立高校との関係を主たる議論として、展開していくべきであるという御意見。都市部存立普通校に対する改革も不可避であるというような御意見。子どもたちを主とした当事者の気持ちに真摯に向き合い、丁寧なフォローアップをしていくべきであるという御意見。10年後、20年後を見据えた責任ある意思決定が必要であるという御意見。いずれもとても重要で、かつ多様な御意見が出たということも申し添えておきたいということで、書かせていただきました。

なお、先ほどこちらの合同部会の報告におきまして、具体的な条件整備の在り方を議論していくべきであるという御意見が、大勢を占めたこともありました。では、どのような条件整備、あるいは今後の論点があり得るのかということも委員の皆様方の御意見を頂戴してまとめさせていただいたものが、「今後の論点としては」というところでまとめさせていただいたものであります。

大きく分けて4つに分けることができますが、1つ目は、総合技術高校を設置する場合に生じる様々な課題。例えば、通学区問題や情報提供の在り方、こういった事柄に対する方策を具体的に検討していく必要があるというようなもの。2つ目は、子どもや保護者に対する積極的な情報提供を行い、中学生や保護者に選ばれる高校となるための方策を考える必要があるというような論点。また3番目としましては、本地区の専門高校を統合し、総合技術高校を設置した場合には、高校がなくなる地域が出てくることが想定されるため、地域住民の理解を得るための方策を検討すべきであるというような御意見。4つ目は、旧第11通学区高等学校教育懇話会におけるこれまでの住民説明会、研究部会、そしてこの合同部会で提起された多面的・多角的な論点に真摯に対応していく必要があること。こういった4つほどの御意見をいただきました。

いずれにしても、具体的な条件整備の在り方、そして情報提供、地域住民等に対する理解というようなことを引き続き丁寧にしていくべきであるという御意見を頂戴したことになります。最後になりますけれども、こちらの旧第11通学区の懇話会、そして旧第12通学区の協議会においては、こちら11ページ目に記載した合同部会の報告を踏まえた形での維持運営を期待したいということで結ばせていただいていることになります。

少々、丁寧に説明をさせていただきましたけれども、今回、こちらの報告に関しましては、今、こちらで行われております懇話会において、合同部会からの報告を受けたということで、まずは受け止めていただけたらと思っております。こちらの内容を踏まえた議論というものに

については、また、今日の残りの時間、さらには今後の報告書等の際に踏まえた御発言等を、こちらとしてはお願いしたいと思っております。

長くなりましたけれども、合同部会からの報告に関して、御意見というより、まずは御質問があれば、ここで一旦受けたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

**宮澤安曇野市長** お願いします。今、座長から御報告をいただきました。精力的な支援をしていただいたということで改めて御努力に対しては敬意を表します。ただ、旧 11 通学区の高等学校を守る会、この懇話会ということで協議会とは少し違った形態になっております。この懇話会の目的が、長野県教育委員会に意見要望することを目的に開催するというものになっております。

この前、私は疑問がありまして、長野県は教育県と言われながら、今、教育県、何を目標に、何をもちて教育県と言われるか。恐らく、昔のような教育県と言われたいような状況になっているというお話をさせていただきました。私学との関連というものを重視していかなければいけないのではないかとこの話をさせていただきました。

私ども、安曇野市だけを見れば、松本市とのつながりが非常に強いわけでありまして。私は長野県教育を論じるならば、中信、南信、東信、北信の 4 地区ぐらいに分けて、長野県教育の在り方を論議するいい機会ではないかという捉え方をしておりました。にも関わらず、今日、見せていただいて、少しびっくりしたことがあります。安曇野・大北地域の高等学校を考える合同部会の開催要綱の中では、隣接する地域にある 3 校の専門学校について検討するとあります。

以前の懇話会の中で、私は疑問点として、なぜ 11 通学区と旧 12 通学区を取り出して、あえて 11 通学区、12 通学区の議論をするのかという質問をしました。それに対して、教育委員会から、高校改革、夢に挑戦する学びの実施方針の中の 55 ページには、旧 12 通学区の専門学校の将来像の検討と併せて広域的・多角的に検討することが考えられるということが記載をされているから、これに沿って 11 通学区、12 通学区の話合いの場を持つのだと、こういう話をいただきました。

なぜ、この 11 通学区、12 通学区の隣接する 3 校の専門学校だけに特化をしているのか。私どもは先ほど言いましたように、松本の学校とのつながりが非常に強いわけで、専門学校ということになれば、松本には松本工業高校がございまして、また私学では松商学園があるわけですが、この具体的な名称を言えば、南安曇野農業高等学校、穂高商業高等学校、池田工業高等学校の 3 校だけを特別取り出してやられているのか。この目的が最初の目的と若干変わってきているように私は捉えておりますけれども、教育委員会の見解をお聞かせいただきたいと思っております。

**荒井座長** 御質問ありがとうございました。県の事務局からはいかがでしょうか。今の対象に対して。

**駒瀬長野県教育委員会事務局高校教育課高校再編推進室長** ありがとうございます。ただいまの御質問でございます、この南安曇野農業高校、穂高商業高校、池田工業高校につきましては、確かに市長御指摘のように 55 ページのところ、第 1 期総合技術高校の設置など、旧第 2 通学区の専門校の将来像の検討を併せて、広域的、多角的に検討して考えるというような方向性にに基づきながら、具体的にどのような御議論をいただくかということで、今回合同会を設置して議論していただいたところでございます。



この3校につきましては、11 通学区、12 通学区ということになっておりますけれども、非常に地域的には親和性があるという観点で、例えば大北の池田工業高校におきましても、安曇野から多くの生徒が通っているという現状がある中で、この 11 通学区、12 通学区の専門校については、一体となって県の中心となっているのではないかという観点から、今回合同部会で話をさせていただいたということになります。以上です。

**宮澤安曇野市長** この専門高校をどうするかというときに、なぜ3校に絞らざるを得ないのか。私ども先ほども申し上げましたとおり、松本の地域とのつながりが非常に強いわけです。松本工業高校もございますし、私学との関連について以前から言っておりますけれど、全然私学との在り方については答えが出てまいっておりません。県立高校のことだけ考えていけばいいのか。長野県教育を考えるとすれば、私学と県立と両方を併せた中での教育の在り方を教育委員会としては考えるべきであって、高校教育が県立だから県立のことだけ考えていけばいいのかどうか。

それから専門高校となれば、先ほどもお伺いさせていただきましたけれども、私どもは池田工業高校との関連もありますけれども、松本工業高校との関連も非常に強いわけでありませう。なぜ松本工業高校や私学である松商学園を除いているのでしょうか。

**駒瀬長野県教育委員会事務局高校教育課高校再編推進室長** その件につきましては、ただいまも説明させていただきましたように、この3校は地域的に非常に親和性があるという観点から、この3校については安曇野・大北地域で合同部会を設置して議論したということになります。

**荒井座長** ありがとうございます。今の部分に関しましては、御意見等あるかと思っておりますけれども、差し当たり、今の会議事項の報告という形で私のほうで概括をしたとおり、第1回から第3回にわたる会議の内容はこちらに報告させていただいたとおりであります。この報告を踏まえて、今のような論点も含めて、また議論を展開していただけたらと思っておりますので、一旦はここで止めさせていただけたらと思っております。御理解ください。ありがとうございます。

続きまして、会議事項（1）報告の次のところに移らせていただきます。次第を御覧いただけたらと思っております。意見聴取の結果についてという形であります。量的な調査、そして質的な調査ということで、こちらに関しましては、これまでも様々な形でヒアリング等をさせていただいた皆様方の貴重な御意見をいただいておりますけれども、もっと丁寧に様々な多様な方々からの御意見をということがありました。中学生と高校生の対面かつアンケート調査、そしてPTA関係者、高校同窓会ということで、座長の私としては今可能な限りできるような方向で、コロナを踏まえて実施させていただいたこととなります。それぞれの内容に関して、事務局から説明をしていただけたらと思っております。よろしくお願いたします。

**山岸長野県教育委員会事務局高校教育課高校再編推進室主任指導主事** 皆様おはようございます。長野県教育委員会高校教育課の山岸でございます。私から資料2につきまして御説明申し上げます。着座にて失礼いたします。

ただいま座長から御説明がありましたとおり、実施項目としては表紙に書かせていただいている内容でございます。1枚おめくりいただきまして、1ページを御覧いただければと思っております。1ページからは中学生のアンケートでございます。公立中学校2、3年生5,391名から回答を得ました。これはおよそ75%の回収率でございました。要約としましては、1ペ

ーじに記載してございますとおりであります。お読みをいただければと思います。

少し細かく説明をさせていただきます。2ページ、3ページを御覧ください。単純集計の結果でございます。まず、家から通える範囲に進学したいと思う高校があるかという設問の結果でございます。およそ9割の生徒があると回答してございます。しかしながら、全体の22%、あると回答した生徒のおよそ25%になりますが、その高校が公立か私立か分からない。また、全体の36%、あると回答した生徒の40%がその課程が分からない。3ページの上になります。また、その下、全体の32%、あると回答した生徒の約35%ですけれども、3ページの中ほど、学科が分からないという結果が得られました。このようなことから、中学2、3年生が行きたい高校はあるが、その高校がどんな高校か分からないという、漠然と進学したい高校を考えている生徒が一定数存在することがうかがえました。

続いて、3ページの下でございますが、その高校に進学したい理由は何ですかという設問、これについて該当するものを1つチェックしてくださいというものでございました。全体の30%、あると回答した生徒の33%に当たりますが、卒業後の進路選択に役立つと回答いたしました。一方で、一番下、全体の16%、あると回答した生徒で17%程度になりますが、この生徒が想定した上の5つの選択肢以外のその他の回答をいたしました。これらのことから、我々大人の考えに収まらない事情で高校を選択しようとしている実情があるということが予想できました。

続きまして4ページ、おめくりください。上でございますけれども、進学したいと思う高校が家から通学できる範囲にないと答えた595人中360名、ないと答えた生徒の約6割に当たりますけれども、その他と回答してございます。こちらも我々が想定した上の4つの回答に収まらない中学生の事情があるのだということが分かってまいりました。

その下でございます。高校を選択するときに、大切にしたいキーワードについて、3つ以内で選択してくださいという設問でございます。選択した生徒の割合の多い順に、高校卒業後の進路、これを選択した生徒は42%。部活動、これが36%。学校の校風・雰囲気33%。友人関係33%。授業内容（カリキュラム）31%と続いております。

5ページに進みますが、記述では、公立に制服を、校則に関する記述、学校施設やトイレの改修、授業内容に関する記述が目をつけております。

続きまして、6ページを御覧ください。6ページからは学年別の集計でございます。最初の問い、家から通える範囲に進学したいと思う高校があるか。これに対しては、2年生のほうがないとする回答が多く、その後の設問でも分からないという回答率が2年より3年のほうが減っている。これらのことから、全般的に2年より3年のほうが具体的な高校像を描く様子が見て取れます。そのほか、御覧いただければよろしいと思いますけれども、次に行つてよろしいでしょうか。

8ページを御覧ください。8ページには、その高校に進学したい理由は何ですか、これの学年別の集計。それからその下には、そういう高校がないと回答した学年別の集計を載せてございます。

9ページは、高校を選択するときに大切にしたいと思うキーワードを3つ以内で選ぶという設問の学年別でございます。校則、制服、部活動、友人関係といったキーワードについては、2年生より3年生が割合を減らしております。その分、課程の種類、高校卒業後の進路、学校の雰囲気といった項目が、2年生より3年生が割合を増やしております。この調査か

らも3年生のほうがより具体的に高校生活について考える様子が見えたと読み取れます。

続きまして、11 ページを御覧ください。11 ページは性別の集計でございます。御覧いただきますと、全体的に性差は非常に少ないということが見て取れます。

進めていただきまして、12 ページを見ていただきますと、学科ということについて。そして13 ページ、進学したい理由。この項目につきましては、小さな性差が示唆されているところでございます。

続きまして、14 ページを御覧ください。キーワードにつきましては、小さな性差が認められてございます。学校の雰囲気、それから制服、部活動、友人関係等で差が見られましたけれども、その他の項目につきましては、統計学上の性差はほとんどないという結果が示されてございます。

おめくりいただきまして、16 ページからですが、16 ページからは地域別集計でございます。1点、特徴を申し上げます。進学したいと思う高校の場所について、麻績村でございますけれども、違った特徴が出ております。また、進学したい高校の学科につきましては、安曇野市、生坂村、麻績村は専門学科の回答が多く、塩尻市と朝日村では、総合学科の回答が相対的に多くございました。これらのことから、地域の高校を志望する傾向があるということが見て取れました。以降、20 ページまで中学の結果を掲載してございますけれども、その他の項目については、統計学上の地域差はほとんど見られなかったと報告を受けています。

続きまして、21 ページを御覧いただきたいと思えます。21 ページからは高校のアンケートの分析結果でございます。高校は公立・私立 17 校、通信制を除く全日制・定時制の全学年の生徒、計 8,645 名から回答を得ることができました。これは、この地区の全高校生のおよそ 77% に当たる回答率でございました。21 ページは要約としてまとめてございますので、お読みいただければと思います。

少し細かく説明を申し上げます。22 ページを御覧ください。まず、高校の調査では、現在通学している高校の満足度を5段階、Aとても満足、B満足、C普通、D不満、Eとても不満、この5段階で回答を求めました。その結果、A・B、とても満足・満足と回答した生徒が、中ほど下を御覧いただきますと、合計で 57%。A・B・C、普通以上が、合わせまして約 93% でございまして、現在の高校生活に満足している傾向にあることが示されました。

23 ページは、その満足度を左右する要因を、大きなものから3つチョイスして回答してくださいというものでございます。生徒の回答した率が相対的に高い順に申し上げますと、人間関係、これが 50%。部活動、これが 40%。学校の校風・雰囲気、これが 35%。授業の内容(カリキュラム)、これが 33% と続いております。一方で、地域等との連携、SDGs などの社会課題への取組、少人数教育など、学びの内容等に関する項目を選択した生徒は総体的に少ない結果となりました。

続きまして、24 ページを御覧ください。現在通っている高校を選択したのは、なぜですかという設問でございます。当てはまるもの全てをチェックしてくださいというものでございます。多い順に申し上げますと、学校の雰囲気、これが 38%。合格できそうだった、これが 33%。自宅から近いから、通いやすいから、29% となっております。上から5つ目の中学校の先生にすすめられたから、回答数がゼロ、ゼロ% と書いておりますが、この項目につきましては調査の中にございませんでしたので、削除をお願いしたいと思います。

この資料には掲載してございませんけれども、実はこの設問は全国調査、具体的に申しますと、21世紀出生児縦断調査と呼ばれるものでございます。この平成29年度調査と同内容の調査でございます。全国と比べて、差が大きかった項目を少し申し上げますと、一番上の自宅から近いから、通いやすいから、この割合につきましては、全国では39.9%でございました。また、2番目の特色ある取組など授業内容に興味があった、これは、全国では16.7%と本調査でも低い割合を示しております。また、中ほど下、卒業後の大学等進学に有利だから、これは、この調査では17%でございましたが、全国調査では24.1%を占めております。そのほかの項目につきましては、大きな差はございませんでした。

続けさせていただきます。25ページを御覧ください。25ページからは学年別集計、性別集計を掲載してございますので、説明は割愛させていただきますが、御覧をいただければと思います。

最後、31ページから御覧いただければと思います。専門的な分析になりますけれども、最初に説明申し上げました学校満足度に関するマルチレベル分析を実施していただきました。その結果、結論のみ申し上げますと、統計学上、下線部の結果が得られました。学校生活の満足度は、学年差と性差に学校間でばらつきがあるということでございます。また、全体的に2、3年生は1年生と比べて満足度が低いという結果。また、女性より男性のほうが、満足度が高いという結果が得られてございます。本調査の調査時期が4月12日から5月上旬にかけてのものでございましたので、入学あるいは進級直後の調査でございました。また、この調査時期が変わりますと、結果も変わる可能性もあるかと個人的に考えたところでございます。

33ページを御覧くださいと、高校の満足度に着目した決定木分析の結果でございます。御覧いただきますように、樹形図によりましてデータ分析する手法でございます。高校選択の理由で学校の雰囲気よかった、その項目を選択したことをYES、選択しなかったことをNOと表記してございますけれども、満足度の高い・低いを計るためにAからE、満足度の高い項目から5点、1点と点数化した結果でございます。

そうしますと、高校選択の理由が、「学校の雰囲気がよかったから」これを選択し、満足度を左右する要因として、「校風・雰囲気」を選んだ生徒、こういう生徒の満足度は4.2ポイントでございました。一番右側でございます。その左側、それらの生徒で、「校風・雰囲気」を選ばなかった生徒の満足度は3.8ポイント。同じように高校選択の理由で、「学校の雰囲気がよかったから」を選択せずに、満足度を左右する要因として「部活動」を選んだ生徒の満足度は3.7ポイント。「部活動」を選ばなかった生徒の満足度は3.4ポイントという結果になってございます。

これらのことから、下線部のとおり、高校を選択する理由の1つに学校の雰囲気というものがありまして、入学後に経験する校風・雰囲気が適合した場合に満足度が高くなる。また、高校を選択する理由が、学校の雰囲気ではない場合に、部活動に満足することで満足度が高くなるということが示唆されます。中学生は高校を選択する上で、学校の雰囲気が自分に合うかどうかを第一に検討する必要があるのではないかとということが見て取れました。中学・高校の説明は以上でございます。

めくっていただきまして、34ページを御覧ください。小中高のPTA役員の皆様2名から5名にお願いした調査、それから高校の同窓会役員の皆さんに向けた調査の結果でございま

す。回答は 208 名から頂きました。

まず旧第 11 通学区の高等学校に期待することを 3 つ以内で回答してくださいという項目についてでございます。「思考力を図る・創造力等の育成」これが全体の 71.4%。「知識・技能の習得」「学びに向かう力・人間性等の涵養」「友情や豊かな人間関係の構築」がそれぞれ 41%、42%程度という結果でございました。

続いてその下でございますが、PTAの役員の皆さん、そして高校の同窓会の回答率に差があった項目を抜き出しております。「探究的な学びの推進」という項目については、高校同窓会の役員の皆さんは 35%、PTAの皆さんは 20%から 24%程度でございました。最も差が大きかったのは、「地域と協働した学びの推進」ということで、同窓会の役員の皆さんは 44.4%、しかし、小中のPTA役員の皆さんは 10%に満たないという結果でございます。以下、御覧いただければと思います。

また、35 ページ以降は、記述していただいた項目について、ほぼ全て原文のまま載せてございます。お願いした項目としては、懇話会で取り上げてほしい事柄や論点及び自由記述ということでございます。御説明申し上げませんが、御覧いただければと思います。

最後でございます。44 ページを御覧ください。高校生による「高校のあり方フォーラム」の報告でございます。公立高校 17 校、延べ 32 名が参加していただきまして、1 時間半程度オンラインでフォーラムを実施いたしました。信州大学の学生・大学院生をファシリテーターとしてお願いして、4 つのグループでグループディスカッションを実施したということでございます。こちら説明は省きますけれども、それぞれの項目で高校生の率直な意見が出されたということで御報告を申し上げます。46 ページまででございます。私のほうからの報告は以上でございます。ありがとうございました。

**荒井座長** ありがとうございます。今の御説明は、次第の量的な調査の部分であります。中高生の Web アンケート、PTA 役員、高校同窓会に対する量的な調査結果、さらには質的な調査ということで、高校生による高校のあり方フォーラムについての報告を聞いていただきました。

それでは、続いて、同じく質的調査もという御意見をいただきましたので、中学生の対面ヒアリングを実施させていただきました。こちらに関しましては、松本・塩尻・安曇野の各研究部会において企画、実施をさせていただきました。御多忙の中、御対応いただきありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の影響で、安曇野市の実施に関しては延期されているということをまず御了解いただけたらと思いますけれども、それぞれ松本市、塩尻市から、こちらの中学生の対面ヒアリングについての報告をお願いできたらと思います。では、松本市からお願いいたします。

**伊佐治松本市教育長** それでは、47、48 ページにかけての説明を私からさせていただきます。まず 47 ページです。日時及び場所ということで、4 月 27 日に行いました。松本市内の中学校の 3 年生 7 名を対象に約 1 時間強にわたって荒井座長による対面のヒアリングを行いました。出席者は御覧のとおりです。

このヒアリング内容のまとめですが、生徒からの聞き取り内容をそのまま記録として掲載しておりますので、項目に関わらず、2 つの視点に絞って強調する内容などをかいつまんで御紹介いたします。

まず 1 つ目の視点、どんな学習が求められているかという点で浮かび上がったのが、協働

的な学びについて子どもたちが求めているのではないかという点です。1枚めくっていただきまして、48ページの一番下の意見を御覧ください。ここではブレインストーミングをやってとても楽しかった、解決する糸口をみんなで考えること、これが楽しかったという意見です。この生徒以外にも多くからこういう学びをやりたいとの声がありました。

1ページ戻っていただきまして、47ページ、下から2つ目の黒ポツを御覧ください。数学の授業のことが書いてありますが、みんなで分からないことを教え合って、相手が分かってくるとうれしいというような意見。それからこのほかにも、みんなでグループワークする勉強が好きですとか、覚えたことを活用することのほうが楽しいなどの意見がありました。

それから2点目の視点です。進学へのイメージ、どのような高校に行きたいかということについてです。48ページの中ほどのところに、どのような高校に行きたいかということがありますがけれども、この中で気になったのは、先ほどのアンケートの結果でもございましたが、高校の雰囲気ということ 키워ドで挙げる生徒が複数いました。具体的には、校則が自由なところですか、文化祭などの活動が盛ん、自分と違う意見を持っている人がいっぱいいて楽しそうなど、こんなことを挙げてくださる方がいました。ただその一方で、そのページの上から2行目にありますように、いい会社に入りたい、平均年収くらいのお金があり、定時で帰れるのがいいというような、中学生なのに具体的、超現実的な点を持っている方や、前のほうのページにありますが、やはりいい大学に入るために暗記の勉強をしたり、それから、幅広く学ぶために偏差値の高いところに行きたいというような現実的な点もありました。

それから、48ページの中ほどになりますけれども、高校選択、高校を選ぶとき、どういう情報が欲しいかというところで、気になる点がありました。2つ目のポツですが、公立と私立の学費などの差についてということで、経済的な負担について、かなり具体的なことを知りたいという質問をされる生徒もいらっしゃいました。この記録の中にはないですが、荒井先生が、「高校に行くと、自分である程度カリキュラムを選べることもあるよ」とおっしゃったことに対して、かなり生徒が興味を持ったようで、目を輝かせて質問しているような場面もございました。私からの報告は以上です。

**荒井座長** ありがとうございます。では、続きまして塩尻市から、赤羽教育長お願いいたします。

**赤羽塩尻市教育長** それでは、お願いします。質的調査ということで、5月6日に塩尻市中学校3年生全員によるグループワークの様子を、1時間強ほど参観させていただきました。資料2、49、50ページをお開きください。まとめた内容ですが、先ほどまでの量的な結果とほぼ同じということで、私からは学校現場で感じたことについて報告させていただきます。

塩尻中学校では、荒井先生が来校されるのをチャンスと捉えて、中学校3年生116名全員が体育館に集合して、グループディスカッションが行われました。事前にアンケートが配られ、自分の考えを持ってのグループワークでした。4名1組ほどのグループになりまして、進行係、記録係などの役割分担をして、高校進学に向けた現時点での自分たちの考えの意見交換です。雰囲気は、前半はとても硬かった感じがしたのですが、最初の意見を受けて次々に意見が出てくると、うなずいたり笑ったりと、リラックスした雰囲気での意見交換でした。

この生徒たちですが、実は私が以前勤務していた小学校の卒業生でして、当時5、6年生でした。この子たちが中学校に入学して、教科担任制をやり、ほかの学校から来た生徒たちと出会い、部活動、学校行事を通して、落ち着き礼儀正しく、さらに開かれた学校の雰囲気

の中で確実な成長を遂げている姿を私はとても頼もしく感じました。

49 ページの中ほどのところですが、先ほどの発表にもありましたが、中学校卒業後の進路についての問いの中では、将来のため、好きな部活、中学校にはない部活、そしてたくさんの人との出会い、そういうところを期待している姿がありました。自己決定による高校選択ができることは、義務教育とは大きく異なる点であります。中学生が自分の夢に挑戦できる高校教育を期待していることがうかがえました。私からの報告は以上であります。

**荒井座長** ありがとうございます。それでは、今、松本そして塩尻の両報告があったわけですが、松本市のヒアリングに同行された横田構成員から、印象等、少し一言いただけたらと思います。

**横田松本市中学校長会長** では、当日同席をいたしました横田でございます。私のほうから感じたこと、気がついたことを少しお話したいと思います。着座にて失礼いたします。

4月27日に行われたということで、3年生になった直後ということもあり、少し緊張している様子でしたけれども、座長の荒井先生が上手にリードしてくださって、本当に温かな雰囲気の中でお話が進みました。私が客観的に見ていて、7名の子たちだったのですが、自分の進路について多分友達とこんなふうにも話さなかったのではないかと思います。

お読みいただいて、もう既に具体的に学校名ややりたいことが決まっている生徒、それから、まだどうしていいかわからないけれど、漠然とした夢を追いたいという生徒もいる中で、少し特徴的だなと思ったのは、恐らく、もうこれまでの間にいろいろ話をしたりして、うちのお父さんやお母さん、保護者の方のお考えというのが、少し彼らに影響を与えているのかなというように見て取れたところがあります。同時に兄弟について触れている子もいますので、やはり身近な家庭の中で、3年生ともなると話題にして、自分の進路の情報を何とかして集めて、自分なりに将来の夢を構築していこうという、そんな雰囲気を感じたところがございます。

兄弟に比べて自分にコンプレックスがあるとか、あるいはお兄さんやお姉さんから学校の雰囲気を感じていて、ぜひそこに、あるいは自分は違った道を歩きたいというような記述もありますので、詳しくはお読みいただきたいのですが、すごく家庭の中で話題にしているなど感じたのは、後半のほうで出た学費について。どの生徒も非常に興味を持って、私立の高等学校と公立の高等学校はどのくらいお金が違うのだろうということも、話題に出ました。これについては、多分また在籍校で詳しく進路学習していく中で1つの方向性が見えてくるのではないかと考えております。将来いい会社に入りたい、平均年収というような、そんなことも話題に出ましたが、非常に自分が進路を選択していく上での現実的な部分と、夢を追いたいという部分が混ぜこぜになっている時期なのだなということは感じました。

いずれにしても、自分でこれから学ぶ方向を選んでいくことができるということに関しては、7名全員がとても興味を示していて、会が終わった後も荒井先生をつかまえて、いろんなことを質問している姿が見えました。そんなことをお伝えして、当日の雰囲気の一部を感じていただければと思います。よろしく申し上げます。以上です。

**荒井座長** ありがとうございます。また次第を御覧いただけたらと思います。今、意見聴取の結果ということで、量的、質的調査ということで、これまでになく大規模のアンケート調査、そして数に限りがありますけれども、対面のヒアリング調査をさせていただきました。前回の3月16日に行われました第3回の懇話会で、御理解、そして御承認いただいたとい

う形で、様々な御意見をということで実施させていただいたものであります。私自身、全てのものに関わらせていただきましたけれども、この貴重なデータをエビデンスとして、真摯に受け止めなくてはいけないというのが、一つ感じたところであります。

また、中学生に聞いても、高校生は意見が、という様々な懸念はありましたけれども、我々大人が思っている以上に、中学生は中学生なりに自立的に物事を考え、高校生も自分の意見を共同的な場で発揮するというのも、高いハードルと捉えず、楽しみながらやっていただいたということが、非常に印象に残っております。それぞれの教育委員会等に御協力いただきましたが、貴重な資料になりました。どうもありがとうございました。

それでは、量等かなりありましたけれども、それぞれの内容をかいつまんでの概説でしたので、まず御質問という形で承りたいと思いますが、いかがでしょうか。

**宮澤安曇野市長** これまでにない大規模な調査ということで、いろいろ傾向が読めるわけです。先ほど申し上げましたとおり、第11通学区と回答した皆さんが、1ページに86%と、最も多かったということでもあります。私どももこの地域は、やはり松本を中心にした教育環境が大変充実をしている、こんな結果ではないかと捉えさせていただきました。

ただ、市民との関係というのが、今まで私が何回も教育委員会の皆さんにはお願いをしましたが、どのような連携を深めて、地域の在り方をどうしていくのか。8対2で生徒を分ければいい、あるいは松本は若干他の地域よりも私立関係が多いので、私立へ行く子どもも多いということは言うておりますけれども。教育全般を考えるなら、私立と公立の割合は撤廃をすべきではないかという思いがございます。

少し問題だと感じたのは、23ページの先生に対する満足度が、12%なのですね。私は非常に低いと思います。これは指導者としての魅力がないのか、指導力が不足しているのか、人間性がないのか、よく分かりませんが、この辺の指導者の資質を高めて、子どもたちと共にある教育の在り方をしていかなければ、長野県教育もどんどん後退をしていってしまうのではないかという思いがします。

したがって、魅力がある指導者がいれば、私はそこで学びたいという生徒も出てくると考えていますけれども、この総合的な指導者の力がないということなのか、かつてのような名物的なとか、専門性を持った先生が不足をしまっているのか、この辺の教員の資質についてはどのように捉えているのでしょうか。しっかり答えていただきたいと思います。

**荒井座長** ありがとうございました。1点目は、公立と私立との関係において、市長御自身の見解として、この公立、私立の割合の撤廃をという御意見をいただきました。2点目に関しましては、23ページの満足度を左右している要因のうちの大きなもの3つ以内でということですので、優先順位はこちらにつけていただいた形での3つということになります。3つ以内ですので、1つの要因になりますけれども、そのことを踏まえて中段にあります「先生」というところの回答と関わって、資質という部分も含めて、事務局のほうで、もしお答えできる部分があればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

**山岸長野県教育委員会事務局高校教育課高校再編推進室主任指導主事** それでは、お答えさせていただきます。23ページの資料のところにありますように、教員というものに期待している、左右している要因が12%ということになって、ほかの数値より低いのではないかという御指摘がございました。この12%、どのような観点から子どもたちがほかと比べたのかという部分をはっきり分かりませんので、この12%がどのような数値的な意



味を持つのかということについては、ここでは私は見解を述べないことにいたします。教員の資質については、様々な各地でやっております懇話会、協議会でも出ているところであります。

ただいま長野県では、高校改革と共に、もう1つ新たな学びの推進という両輪でやっています。その中で、新たな学びの推進、探究的な学びを推進していくために、さらにICTを活用した授業をしていくために、今回4月からは新たな組織を立ち上げて対応していますし、探究的な学びの推進についても、学校間で議論しながら、授業参加をしながら、さらに教育センターを使いながら、質の向上、スキルのアップに努めているところでございます。以上です。

**荒井座長** ありがとうございます。

**宮澤安曇野市市長** いや、答えていないじゃない。私立についてどうなのですか。公立と私立の間が。

**荒井座長** 公私立関係については、県のほうで今進めていること等があれば。

**山岸長野県教育委員会事務局高校教育課高校再編推進室主任指導主事** 公私のことにつきましては、令和2年2月でございますけれども、長野県公私立高等学校の在り方などの懇話会、懇談会というものがまとめていただいたということで、これを参考にしながら今後公私立の在り方については検討していくことになるかと思っております。御指摘の一部によって、一応8対2ということになっておりますけれども、地区によってはその比率が違うところもございませう。そういうことも含めて、今後公私立の関係については検討を進めていくということになるかと思っております。

**荒井座長** ありがとうございます。公私立の関係に関しては、皆様方からも様々な御意見をいただいておりますけれども、恐らく今年度、先ほどの報告を踏まえて、それぞれ地区によって公と私、いわゆる設置主体別の関係の割合が違うということがありますので、その検討が現在進行形で進んでいるということになります。

もう1つ、データ分析の点ですけれども、23ページをまた御覧いただけたらと思っております。先生というパーセンテージ、12%と見ますと少ないような印象を抱きますけれども、逆に、1,000人以上の回答があったという理解もできます。また3つですので、友人関係、部活、学校の校風・雰囲気、そして授業の内容（カリキュラム）というものに、相当程度引きずられている部分もあるかなと思ひまして、こちらの多様な数ある中から3つを選ぶというのは、なかなか実は回答者にとって難しい、悩ましい部分もあるのですけれども、その中でなかなか、私自身は奮闘している部分でもあるのではないかという気もしました。ありがとうございます。

ほかには、この対面、そして質的、量的な調査に関して、御質問等いかがでしょうか。

**宮澤安曇野市市長** もう1点だけお願いします。これをただ聞きっぱなし、言いっぱなし、アンケートの取りっぱなしということではなくて、やはり長野県教育に今後どう生かしていくかということが非常に大切だと思います。PTAの皆さんや多くの皆さんから、いろいろな意見が出ておりますけれども、これらについて意見を聞きっぱなしという無責任なことではなく、しっかり説明責任を果たして、答えてやっていただきたいと思ひます。

例えば、この間も申し上げました、松糸道路、路線が定着するまでに30年近くかかっているのですね。それを、拙速に来年の3月に結論を出すということではなく、やはり出た意見、

疑問点に対しては、しっかり県教委が責任をもって答える、そういった姿勢を示していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

**荒井座長** いかがでしょうか。

**山岸長野県教育委員会事務局高校教育課高校再編推進室主任指導主事** 今いただいた御意見につきまして、今後持ち帰りまして検討等させていただければと思っております。以上です。

**宮澤安曇野市長** いつもはぐらかしだ。はぐらかしの答弁。

**荒井座長** ありがとうございます。今安曇野市長おっしゃられたように、こちらのこの規模というようなものは、スケールメリットも含めて非常に貴重なデータになるかと思えます。自由記述、今回細かくは説明がありませんでしたけれども、それぞれ皆様方当事者意識を持って御回答いただいておりますので、ぜひこのことを真摯に受け止めた議論というのを、こちら私座長としてもぜひ要望としてお願いしたいなと思っております。

差し当たり、この量的な、そして質的調査に関しては、御質問等よろしいでしょうか。

それでは、また次第に目を移していただけたらと思えます。残りの時間は、40分ほどになりましたけれども、(2)(3)ということで、このあと中学生の期待に応える学びの場についてということ。そして、この懇話会の今後ということで、意見要綱の項目について、それぞれ検討していくという2つのお題が残っております。

まず、中学生の期待に応える学びの場についてということで、これまで様々な御意見等いただいておりますけれども、今日報告をさせていただきました合同部会の報告、それぞれ地区をまたがる中での検討の結果の報告、そして今のアンケート調査の結果を踏まえて、ぜひ皆様方から簡単でも構いませんので、御覧いただいた上での所感等をいただけたらと思っております。少し心の準備をお願いいただけたらと思っております。およそ20分間くらいを使って、少し様々な、当事者による見解を踏まえた形での御意見を頂戴できたらと思えます。それぞれのお立場があるかと思えますけれども、いかがでしょうか。ぜひここは、自由に御発言をいただきたいと思っております。

**橋渡安曇野市教育長** 安曇野市教育長の橋渡でございます。今、意見交換の題として、中学生の期待に応える学びの場ということでございます。先ほどのアンケート調査等を見ても、まだ中学2年生の段階では、特に高校の教育について十分な理解がされていないと受け取られるように思います。その中で、この中学生の期待に応える学びの場という、非常に間口の広いことになってしまいます。

私は私自身がこういう立場にいるものですから、これまでも合同部会に出させてもらって、分からないという部分は、地域や産業界の皆様方がどういう高校生を求めているのか、ぜひそんな御意見をいただきたいと思っております。

高等学校の今後の在り方を協議していく場ではございますけれども、これまでの高等学校の明治以降の歩みを考えてみますと、多くの学校の中に地域の産業、特に養蚕が盛んだところは養蚕を担う人材が求められて、まさに実学を担ってきた。そういう地域の高校が数多く存在し、そして時代の流れによって、その求める人材をどういうふうにしていくかという中で、様々な学校が形を変え、学科を変え、そして現在に至っていると。そしてさらに、これからどういう高校がよいかと考えたときに、中学生の学び、中学生にどう寄り添うか、それももちろん大切なのですけれども、我々大人としてどういう高校生を求めていくのだと、そんなことをぜひ私は多くの皆様方からお聞きしたいと思っております。以上です。

**荒井座長** ありがとうございます。貴重な御意見ありがとうございます。ぜひ今日の構成員の皆様、産業業界を代表される方がいらっしゃいますので、御準備いただけたらと思います。先ほどの意見聴取の結果の 34 ページには、PTA役員そして高校の同窓会の皆様方が求める、ある種高校生の学びの在り方という傾向を見ることができるのではないかと考えております。

先ほど橋渡教育長がおっしゃられたように、中学生に関してはまだまだ学びの中身というものについては、イメージがわからない部分がありまして。とは言っても、先ほど松本市教育長からあったように、共同的な学びやグループワークを活用したような学び、探究的な学びということをやってみたいという御意見をいただきました。34 ページの P T A 役員及び同窓会の役員の回答では、思考力、判断力、想像力、こういった部分についての要望といいますか期待感。また当然のことながら、友情や豊かな人間関係の構築といったような部分。このあたりのことが出ておりますけれども、産業界としてはどのようにこのあたり受け止め、また高校生にはどんな高校生に育てほしいか、このような御意見を頂戴できたらと思いますけれども、いかがでしょうか。お一言でも構いませんので、少し印象等お聞かせいただけたらと思います。

**井上松本商工会議所会頭** 私、今産業界と言われたので、今日産業界 7 名の方が出ておりますので。その関係ではなくて、第 1 回、たしか 11 月にこの会議が合同庁舎で行われたときにも、今日の今の質問とずれていて申し訳ないのですけれども、定時制の問題がどうなっているかという意見を出したことがありました。その後、いろいろな形で調整していただいて、私立の問題と公立の問題とが出てきました。それにまた産業界の話をするとう複雑になるので、ずっと黙っていたのですけれども。

例えばこの間、高校受験がありまして、全部決まりました。松本地区は比較的、中学浪人が 1 人もいないのですよね。それがどうしてかという、私立がみんな受け皿になっている。それで問題解決するかというそうではなくて、私は筑摩高校の振興会の会長をやっておりますし、長野県の定時制高校の教育振興会の会長をやっています。では、定時制にどうして 100 名、200 名の人が入っているかと。そこをやはり目をそらしてはいけないと思うのですよね。皆さん今ここでやっているのは、どうやったら高校に入って、どうやったら私立に行くか、公立行くか。そこともう 1 つ、100 名 200 名の人、筑摩高校に入学しているという事実を、やはりもう一回問題点として、今日の課題ではなくて、考えていただきたいと思っております。

私は幸いなことに、原山教育長、駒瀬室長が、大変定時制推進制に御理解がありまして、本当に順調に定時制のほう進んでいます。生活体験発表会という生徒の意見の発表会があります。あれを聞きますと、ほとんどの生徒が、100%と言わないまでも、筑摩高校に入学してよかった、そういう意見も出ているのが現状です。

それで問題は、100 名、200 名がなぜ、中学浪人がいないのに、定時制通信制に来るのか。ほかの高校、ここには望月高校等たくさんありますけれども、来るのか。その現状を見ておかないといけないと思います。それで、1 回だけ行ったことがありますけれど、8 割以上の人が不登校、発達障害。その不登校はなぜなのか、ほとんどいじめです。そういう現実を考えたら、やはりそこからも、この第 11 通学区の再編の問題はちょっと別として、教育だったら目をそらしてはいけないかなと感じております。あくまで今日の問題と少し違いますの

で、そこも考えていただきたい。

それからもう1つ、今年入学したときの調査をされたのでしょうか。どこの組織で教育でというのは、中学卒業した人はどこへ行ったのか、全部分かっているのか。私立へ行ったのか公立へ行ったのか、あるいは県外に出たのか、そのぐらいの調査は、私はしていただきたいなと思います。以上です。

**荒井座長** ありがとうございます。最後の進路状況調査について、事務局で現状を説明いただけますでしょうか。あるいは校長会のほうで何か情報があれば引き続きお願いします。

**駒瀬長野県教育委員会事務局高校教育課高校再編推進室長** 井上会頭ありがとうございます。定時制につきましては、本当に様々な部分に御尽力いただいていることについて、この場で感謝申し上げます。ありがとうございます。最後の中学3年生の進路状況でございますが、これについては、細やかに調査しておりますので、それは公開できる部分と公開できない部分がございますので、公開できる部分につきましては、次回、お示ししたいと思っております。

**荒井座長** ありがとうございます。では、中島会頭、続いて一言いただけたらと思います。いかがでしょうか。

**中島塩尻商工会議所会頭** 産業界として求めることというお話ですけれども、私ども塩尻の特に工業において中小零細企業が多いわけで、一般に言われている学生に対する必要な知識というのは中央と地方、あるいは大企業と中小企業で大分違うのではないかと思います。一般に言われているいわゆる情報教育というものは、地方や中小企業でどれだけそれが必要なのかというようなこと。それから満足度、23ページのICT環境、少し御質問の趣旨と変わるかもしれませんが、割合が1%、大分その割には大きな公費が費やされている、意外と満足度が低いなということで、強調されている言葉と乖離が見られる。これをどうやって上げるかということで。それから、一般言えることはグループ、大勢で、みんなでいろいろと工場を運営していくという教育が言われていますけれど、現在この不況の世の中に、一方で元気な会社が、そういう会社の多くがよそにない、みんなでということじゃなくて、独自の活動を展開している会社が非常に多い、目立つわけです。そういったものに対して教育というのは少し少ないのかなという感じはしています。以上です。

**荒井座長** 貴重な御意見ありがとうございます。恐らく23ページの満足度を左右する要因の部分のICT環境ですが、恐らくちょうどこのGIGAスクール構想を含めて環境整備されたのが反映された形での満足度ではないので、この後どうなるのかを経年的に見ていく必要があるかなと感じました。

では、高橋構成員一言お願いできますでしょうか。

**高橋安曇野市商工会議所会頭** 安曇野市商工会の高橋です。組織を代表しての意見はまとめてないわけですから、どちらかといえば私的な意見であるということをお話しておきたいと思えます。

私がこのことを知ったのは、少子化から始まってどうしても少子化が教育に、学校に与えるものが大きくなると、クラブ活動なども満足にできないというお話を聞いていたからです。ですから、そういうことがあるかもしれないということで、先日、話し合いがあったときに、須坂の高校が総合技術高校になったときに、産業界・商工会と非常にいい関係が結ばれた、よいコミュニケーションが取れているということをお聞きしまして、そのようなことが起きるとい

うことを言っているかと思いました。そうであるならば、総合技術高校もよいのではないかと思ったわけです。そのとき感じたことは、総合技術高校になったらコミュニケーションがよくなって、では総合にならないときはコミュニケーションが悪かった理由は何だろうかということ私を私は聞きたかったです。総合技術高校になったからこそ、よくなる理由を聞きたかったということです。

それから、安曇野地区に関しましては、まとめのところに書いてあるのですが、非常に地域連携や高い専門性を追求する学びが増えていますが、安曇野の高校は全部それができているということが現実に話されていますので、もしそういうことができているのであれば、一緒にするのがいいのか悪いのか私にも分かりませんので、もう少し、安曇野に関しては進めていただいてもいいのではないかと思いました。地域の人たちがそこまで一緒ではなくても、十分に安曇野はうまくできているから、そのようなことはいらぬのではないかという思いが強いと思いましたので、もう少し話を進めていただければありがたいと思います。以上です。

**荒井座長** ありがとうございます。続いて、降幡構成員一言お願いできますでしょうか。

**降幡長野県建設業協会安曇野支部長** 私は建設業でございまして、今実情をお話いたしますと、私どもの安曇野市には南安曇農業高校がございまして、そちらのほうに環境クリエイト科というのがありまして、昔でいう農業土木科でございまして、ここは実技研修などを建設業協会で行っておりまして、非常に高校ともつながりを持っております。

また、南安曇農業高校は、2級土木施工管理技士の学科試験を高校のうちに受けるのですが、約95%の生徒が合格するというところで、長野県有数の勉強をして、実技を学んで、社会に出ていくという高校でございまして。この学生は、市町村役場にも行きますし、松本、安曇野周辺の地元の企業に就職したいという学生も多くいます。ですので、こういう意欲のある学生が、採用していただけるようになればいいなと思います。以上です。

**荒井座長** ありがとうございます。では、平林構成員も一言いただけますでしょうか。

**平林松本機械金属工業会会長** 松本機械金属工業会の平林です。私は工業会としての意見をまとめてありませんので、個人的な意見ですけれども、まず1つは、専門とか専門でない以前に、我々として一番欲しい人材は、もう少し高校のときに、格好いい言葉で言えば、リベラルアーツといいますか、いろんな面で勉強をしてほしいと思います。専門知識がいらぬという意味ではないのですが、こういう問題が起きて、原因は何だろうと、それは表面的ことではなくて、じゃあこうなるだろうという考え方の循環をきちんとできるような子を高校として育成してほしいと思います。

私はこの会議に出席率があまりよくないのですが、中学生の望むもの、高校生の望むことを大事にしようという割には、地域のエゴとかOBの郷愁とか、恐ろしい少子化の事態をもっと我々大人が認識して、考えていかなければいけないのではないかと思います。以上です。

**荒井座長** ありがとうございます。続いてPTA関係者ということで、それぞれ就任されたばかりかもしれませんが、アンケートの結果等を含めて所感等いただけたらと思います。松本市から山本会長お願いします。

**山本松本市PTA連合会会長** 所感でお話をさせていただきたいと思います。まず、松本市・塩尻市の中学校の生徒のアンケートを読ませていただいて、自分の子どもが中学2年生にいますが、こんなに活発に自分の将来について、考えているのかなというところがありま

す。塩尻市は全員ということで、中学校3年生の意見として、捉えられていいと思うのですが、松本市はもう少し中学生がたくさんいて、全てとは言わないのですが、もう少し意見が違ってくるのかなと。選抜された子どもというのは、多くの意見が言える子どもであって、そうでない子どももいらっしゃるのではないかと思います。なので、現状とは少し違うのではないかとPTAの親としては思いました。

また、高校生の意見聴取として、先生の項目があったのですが、大事なものということで、親としては、現在高校生の息子がいるのですが、私は、先生に対して非常に信頼を持って、子どもを預けられている。大きな進路の高校3年生という立場の親としては、先生から来るお便り、子どもとの関係は良好に、先生も一昔前の先生、自分が高校で学んだときは全然違い、非常に親身に、子どもたちと向き合っているのではないかと感じております。

なので、先生方の質などの部分に関しては、それぞれに意見はあると思いますが、良好な関係を築いていただけていると思いますし、高校の先生方、中学の先生方も子どもの一人の人格というものを大事に対応していただいているのではないかと感じております。以上でございます。

**荒井座長** ありがとうございます。

**早川安曇野市PTA連合会会長** 安曇野市のPTAです。これから中学生を高校に送り込むというか、お世話になろうとする親の立場としましては、先ほど松本の方も言われましたとおり、やはり子どもたちが選ぶ中での情報量というのは、その子どもが集められる情報というのは少ないように思う。あまり考えられてないのかなと思った。実際に、私の娘は豊科南中学校の3年生なのですが、高校のことを何も知らないのです。高校行けば何を学べるとか、そういったものをあまり知らない。それは、個々の資質かもしれませんが。

総合技術、まさに安曇野市の渦中にある中で、やはり農業とか商業とか、そっちを学ぶというイメージしかないのです。いろんな関係の方が、その中でもいろんな工夫をされてカリキュラムを組んでいく中で、それが伝わりにくいというものではないかなと思います。それがまた、その技術高校ということになったときに、またカリキュラムというか、そういうのを総合してやるのだよということが、本当に生徒全てに分かるような感じになればいいのかなと思います。

産業界の方から、先ほど、1つのことにとらわれないような方向で、もう少し他分野のことも幅広く学べる場があるといいということもおっしゃっていました。そういう意味では再編していただくかどうか、ちょっと分からないけれども、しっかりと情報を頂ければと思います。入ってからの者としては。

普通科というところについては、公立高校はこうなのかなというようなことですね。例えば、昔から名門の進学校がありますけれども、都会の波が同じようなことになってくるのか、軒並み進学実績は下がってきているイメージもあって、それに加えて昔はそんなに高いとか思われてなかったところで、進学率をどんどん伸ばしてきている私立高校がある中で、親としては、これはもう、まさに高校入ってからのサポート力の違いだと思うのです。なので、高校3年間を終えた後の、その先の進学を見据えたときには、私立高校というのはすごく興味や魅力があるように思ってしまう部分があるのです。なので、もちろん県立高校、昔の伝統があって、そこから優秀な生徒を輩出されているようなところを、もう少しやっているの

だぞというか、そういうところを見せていただけるといいのかなと感じました。

先生との関係というのは、娘も少し悩んだりとか、替わるとよかったりとか、かなり満足度を左右している要因のうち、先生というのはやはり大きいようなイメージがあります。ただ、先生お一人お一人の資質ということもありますし、これはもうどうしようもない部分だと親としても割り切っている部分もあるのですが、問題を抱えたときに全体としてサポートしてくれる学校のサポート体制というか、そういう先生との関係で悩んでいるときに、学校としてサポートされるシステムがあるのか、そういったものがあるとよろしいのではないかと思います。すみません、まとまりません。

**荒井座長** ありがとうございます。高校入学後のサポート力というのは、非常に保護者の立場から重要な部分かなと感じました。ありがとうございます。それでは、時間も超過しておりますので、ほかにぜひという御意見があれば一旦ここで受け止めて、もし、ないようでしたら次のところを踏まえてと思います。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、会議事項の（３）に移らせていただきます。意見要望の項目についてということで、資料３を御覧いただけたらと思います。冒頭、県から説明をお願いいたします。

**山岸長野県教育委員会事務局高校教育課高校再編推進室主任指導主事** それでは、資料３について御説明申し上げます。２ページ以降、御覧いただきますと、これまでに他の地区から長野県教育委員会に提出をいただきました意見提案書の項目を記してございます。本懇話会の意見・要望書（仮題）とさせていただきますが、この項目案は１ページに掲載してございますが、この参考で載せさせていただいたものを吟味させていただきつつ、本懇話会のこれまでの取組から得られます様々な方の思い、こういうものを御意見として最大限生かしていただけるものとして、座長と相談して項目案としてまとめたものでございます。これを基に、意見要望書（仮題）この創案を始める、活動を始めるということをお提案申し上げたいというところでございます。御審議をよろしくお願いいたします。

**荒井座長** ありがとうございます。資料３を御覧いただけたらと思います。今、御説明ありましたとおり、２ページ目以降は他の地区における、いわゆる目次立てという形になりますので、またこちらでも御参照いただきたいと思っておりますけれども、１ページ目の意見・要望書（仮題）となっております。「はじめに」以降、これまでのいわゆる数値的なことも含めての現状と課題をまとめ、本日、御紹介、御報告させていただきましたアンケート、意見聴取等の結果を踏まえまして、これまで３回にわたり、そして本日も含めて頂いた御意見に関して、この４の意見・要望ということで、皆様方から頂いた要望を記載したいと考えております。

この項目案に関しては、まだまだ今後、修正等ありますので、こちらの座長と事務局で、たたき台という形で作成させていただき、それを含めて皆様方にまた御審議を図って、こういったものを加えるべきだとか、こういうような言い回しに修正すべきだということで、具体的な検討をしていただきたいなと思っております。こちらに関しまして、何か御意見等いかがでしょうか。

**橋渡安曇野市教育長** 安曇野市教育長の橋渡でございます。今日も多くの皆様方から言われていたことの中に、この第 11 通学区の特徴であるとか、あるいは他地域にない特殊性のお話がありました。この２番からの現状と課題に入る前に、やはりこの旧第 11 通学区がどんな地域なのかというのをしっかりと明記し、我々がそれを共有した上で、現状と課題、そし

て今後に向けてというような項立てになっていくのではないかと思います。そのほか、私なりに幾つか御提案したいことも多岐にわたりあるのですけれども、そういった細かい部分まで含めて、こういった場で一々申し上げていたのでは前に進まない部分があると思いますので、今後の進め方としては、もしこういう意見があるというのを事前に聴取していただくなりして、次回にまたそれを生かして積み重ねていくという方法も考えていただければと思います。以上です。

**荒井座長** ありがとうございます。今、御意見頂いたとおり、この後、差し当たり皆さん材料が必要かと思っておりますので、この項目立てを含めて、たたき台を出させていただきますけれども、本日この資料3としてお出ししましたので、今、安曇野教育長から頂いたように、11通学区そのものの特性とか特徴、固有の状況を入れたほうがいいのではないかとか、ほかにも、こういったものを入れたほうがいいというものがあればと思います。それは随時、事務局で受付をいただくなり、意見聴取という形を踏まえた形で次に出せたらと感じました。貴重な御意見、御提案ありがとうございます。

ほかには、いかがでしょうか。

**宮澤安曇野市長** 意見・要望ということですが、長野県教育委員会の夢に挑戦する学びの中では、長野県どこの地域も一律にという考え方があるのではないかなと思っております。それぞれの地域の特色をどのように生かしていくかというのも、教育の大きな目的ではないかと私は感じますし、何回もくどいようですが、この11通学区は多様な学びの場がたくさんございます。具体的に申し上げますと、松本深志高校、今年度は1クラス増やしました。少子化、少子化と言いながら、松本深志高校1クラス増やしたという理由がよく分かりません。最初から、職業高校をターゲットにしている状況だと捉えております。

先ほど話がありましたように、この高校再編改革の問題については、多くの市民の皆さん方の意向というか、意見が盛り上がってこない状況にあります。これは、直接利害関係が生じてくる、自分の子どもがどこへ行くかというようなこと、あるいは、高校に行っている子どもたちがどの大学へ行くかというようなことで、まだ目的がはっきり定まっていない中で、一般的には関心を持たれる皆さんが非常に少ないと思っております。

本日お集まりの皆さん、それぞれの組織を代表はしておりますけれども、組織の意見の集約はなかなか難しいと考えております。したがって、個人的な見解を言わざるを得ない。私も市長という立場でございますが、全てが、これが市民を代表する意見ではございません。私見も相当入っております。そういう中で、どのようにしたら学校存続できるのか、1校なくなるということになれば、地域にとっての活力は失われますし、若者が定着をするような地域づくりができません。ますます過疎化をしていくところは、衰退をしていくという状況に陥らざるを得ません。したがって、何回も申し上げますが、私学との関係をどうするのか、また、県民世論をもう少し幅広く聞くにはどうするのか、工夫が必要だと思います。

それから、今、言われていることは、地球温暖化、環境問題が叫ばれている中で、各自治体、県も含めて技術屋が不足をしてきていると。万が一の災害対策等に備える人材がないということをお聞きいたしております。したがって、これらの計画については県の中でも農業関係の在り方、あるいは土木、技術等の減災対策も含めた在り方、そしてまた環境面についての在り方等、教育委員会としては、庁内会議というものをしっかり開いて関係部局との連携が深まっているのかどうか、私は非常に疑問でございます。



それから、この要望書を提出した後、言いつばなし、聞きつばなしになってしまうのか。これで解散ということでもありますけれども、ここに出されたいろいろな意見は、どなたがどのような形で担保をされているのか非常に不明確であります。したがって、今後の在り方、来年の3月に結論を出すというようがございますが、住民世論が盛り上がらないと思われる中で、一定の皆さんの意見だけが県民世論ではございません。拙速な結論を出すべきではないと私は考えております。以上です。

ぜひ、今回、令和3年度の松本深志高校が1クラス増えた、これは希望があったということだと思いますけれども、例えば松本深志高校を10クラスにすれば、恐らく10クラスが埋まると思うのです。長野県の教育の在り方、どこへ何を目標にしているのか、よく不明確でありますので、理解できるような説明をお願いいたします。

**荒井座長** ありがとうございます。御意見等いただきました。1点、定員の問題については、県のほうで何か御回答できる範囲でお願いしたいと思います。

**駒瀬長野県教育委員会事務局高校教育課高校再編推進室長** 定員につきましては、よく御説明いたすところでございますが、私たちの部署とは違う部署でやっておりますけれども、基本的には中学卒業予定者数を基本として普職のバランスを考慮しながら、過去の志願者数及び入学者数の状況、隣接通学区との流出定員及び空き定員の状況、さらには先ほどの私立高校の定員などを根拠としまして、県教育委員会で決めているというような状況でございます。

今年につきましては、今年度はこの地区、11通学区は57名の通学区予定者が昨年より多いというようなことを背景に、1クラス深志高校で増加したということになるかと思っております。以上です。

**荒井座長** ありがとうございます。これに関しては、また県のほうでは他部署かと思っておりますけれども、改めてどのような形で説明するか整えていただきたいなと座長としては感じております。

では、時間も差し迫っておりますので、差し当たり、この意見・要望書のほうを今回目次として提案させていただきましたが、今後、この中身についての情報を加えていくという運びになります。こういった項目立てを加えるべきではないかも含めて、随時事務局に御意見、お寄せいただけたらというのが一つです。また、度重ねての確認ですけれども、この意見・要望書ということはあくまで一つの懇話会としての意見を一つにまとめるという性格のものではないということと、あと、いわゆるパブコメ、パブリックコメントは実施しないということは既に皆様方から前回の回答等で御了解いただいている内容ですので、これまで皆さんが御発言いただいた内容をそれぞれ入れ込んでいくということを基礎としながら、さらに皆さんのほうでブラッシュアップしていただけたらなと思っております。このような形で今後、次回の会議は7月ないし8月を予定しておりますけれども、方向性、進め方についてはよろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

**荒井座長** ありがとうございます。

それでは、(4)にいけます。その他ということですが、座長としては特段ありませんけれども、皆さんいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

**臥雲松本市長** お疲れ様です。荒井座長を中心に回数を重ねて、また、幅広いアンケートを行われて様々な意見聴取がされているかと思っております。その上で先ほど安曇野市の宮澤市長から

も御指摘があった、盛り上がってこない、あるいは関心を持つ人が少ないという御指摘は一定程度、的を射ているのではないかと感じております。

それは、教育問題というのがどうしても、それぞれの親御さんが当事者になる年代に当たるか当たらないかということで、限定的にならざるを得ないという本質的な問題。それと、これも合意形成の進め方で、ある意味必然的な方法になっているとも思いますが、一方で非常に、この教育懇話会で本当に中心的な課題が何なのかということの絞り込みが、どうしても、もやとしたもので進めざるを得ないということが影響しているのだと思います。

具体的な松本市外の3校の専門高校の話に絞り込んでいる話なのか。そうではなく、松本市内の普通高校の在り方についても俎上に乗っているのか。さらには、既にある公立高校の改革の歩みが、なかなか制度上難しいのか。松本市内では、私学が先行して様々な取組を行っているわけではありますが、そうした公立と私立の在り方というのが根本的にもう変わってきているということ、どこまで盛り込んで、我々は議論していくべきなのか。

そうしたことを、なかなか取りまとめの長野県教委では御苦労されて進めてきているとは思いますが、最終的には、この折衷社会であります長野県教育委員会がもう一步踏み込んだ形で、この11通学区の大人から子どもまで、この問題に向き合えるような情報発信と論点整理をして、これから最終的な県の要望書の作成に進んでいっていったらなと思います。

突き詰めれば、どうしてもこの改革再編が必要なのか。これがなければ、これからの少子化や県の財政上、行き詰まってしまうというところの深刻さが、やはり根源としてないと、議論が堂々めぐりになってしまう。今日も2時間お聞きしながら、そういう印象を持ちました。もう一段の御努力を長野県教委にはお願いしたいと思います。以上であります。

**荒井座長** 御意見ありがとうございました。ぜひ事務局のほうで真摯に受けとめていただいて、次の見解というように思っております。

それでは、司会の不手際で時間が超過してしまいましたけれども、今後のスケジュールも含めて事務局のほうにお返ししてと思っております。御協力いただきましてありがとうございました。

**青木こども教育部長** 座長、副座長におかれましては、スムーズな議事進行をいただきまして、大変ありがとうございました。また、構成員の皆様にも貴重な御意見をたくさん賜りまして、大変ありがとうございました。

最後に事務局から2点御連絡を申し上げます。本懇話会の議論や住民説明会、それから意見聴取等の取組を広く地域の皆様に周知をしていただくために、3市5村のホームページにこれまでの会議の次第、資料、議事録を掲載させていただく予定でございますので、御承知おきいただきたいと思います。

それから、次回の会議につきましては、ただいま7月から8月ということになりましたので、改めて日程調整をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

ほかに特に御発言がある方はいらっしゃいますでしょうか。

## 5 閉会

**青木こども教育部長** いらっしゃらないようですので、以上をもちまして旧第11通学区高等学校教育懇話会、第4回会議を終了といたします。

